

国家指定芸能

能楽特別鑑賞会 金沢公演

〔狂言〕 萩大名

能村 祐丞

〔能〕 望月

佐野 由於



平成27年

8月16日[日] 午後3時30分開演(午後2時30分開場)

石川県立能楽堂 〒920-0935 金沢市石引4丁目18-3
TEL.076-264-2598

入場料

前売 4,000円 当日 4,500円 **全席自由**

学生 2,000円(大学生、高校生)

金沢能楽会のHPより前売り予約をすることができます。
詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.kanazawanohgakukai.jp>

チケットのお求め

石川県立能楽堂 TEL.076-264-2598
石川県立音楽堂チケットボックス TEL.076-232-8632
香林坊大和プレイガイド TEL.076-220-1332

主催／一般社団法人日本能楽会 後援／公益社団法人金沢能楽会
お問い合わせ／公益社団法人金沢能楽会 TEL:076-255-0075

国家指定芸能

能楽特別鑑賞会 金沢公演

「和泉流狂言」萩大名

訴訟がかない、近日帰国する田舎大名が、在京中の気晴らしに遊山に出、太郎冠者なじみの清水坂の茶屋へ立ち寄り、庭の萩を見物します。田舎者の悲しさは庭褒めの言葉に品がなく、食い気や実用への見立てに冠者が「しい」を連発します。当座の和歌も打ち合わせ通りには思い出せず、あきれた冠者が姿を隠したものですから、苦し紛れに末句を「太郎冠者が向かふ脛」(スネはハギとも言います)と詠んで、怒った茶屋に追い払われます。

「宝生流能」望月

事の発端は信濃の国で従兄弟同士の口論でした。討たれた安田の庄司友春の従類は離散し、妻子も敵(望月の秋長)の所縁を恐れて故郷を捨てました。都の手前、近江の国の守山の宿で妻子(ツレ・子方)が泊まった甲屋の亭主(前シテ)が、やはり望月に狙われて都から帰郷できない小沢の刑部友房(友春の家来)でした。両者が再会を喜ぶところへ、都で本領を安堵され上機嫌で帰国する途中の望月一行(ワキ・アイ)が偶然同宿します。小沢の計らいで芸能者に扮した妻子が望月の座敷に出て、まずは曾我兄弟の仇討ちの物語を歌い上げます。興奮した子の花若が思わず討ちかかろうとして相手を身構えさせますが、小沢が制して花若には八撥を打たせ、自らは獅子を舞うことにします(中人)。花若の羯鼓の舞に続いて、扮装を改めた小沢(後シテ)が豪華な獅子を舞い、酒に酔い眠気のさした望月をとらえて、二人で仇討ちの本望を遂げ、本領に帰ることができません。

(金沢大学人間社会学域教授 西村聡)

番 組

【宝生流舞囃子】

玉葛 シテ 渡邊荀之助
笛 片岡憲太郎
小鼓 住駒幸英
大鼓 飯嶋六之佐 ○
地謡 広島克栄
高橋憲正
佐野玄宜
藪 克徳

【宝生流仕舞】

半部 クセ シテ 松田若子 ○
松虫 クセ シテ 島村明宏
是界 シテ 高橋右任
地謡 広島克栄
高橋憲正
佐野玄宜
寺田成秀

八島

シテ 宝生和英
地謡 武田孝史
佐野玄宜
藪 克徳
佐野弘宜

【喜多流一調】

杜若 シテ 粟谷能夫
太鼓 麦谷清一郎

【観世流仕舞】

砧 前 シテ 野村四郎
地謡 岡 久廣
武田尚浩
浅見重好
藤波重彦

休憩10分

【和泉流狂言】

萩大名 シテ 能村祐丞
ツレ 荒井亮吉
アド 炭 哲男
後見 山田讓二

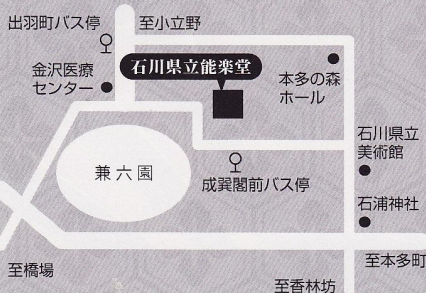
【宝生流能】

望月 シテ 佐野由於
子方 渡邊真之助
ツレ 渡邊茂人 ○
ワキ 高安勝久
間 山本東次郎
後見 宝生和英
渡邊荀之助
笛 藤田二郎兵衛
小鼓 住駒幸英
大鼓 飯嶋六之佐 ○
太鼓 麦谷暁夫 ○
地謡 武田孝史
広島克栄
高橋右任
島村明宏
寺田成秀
藪 克徳
佐野弘宜
木谷哲也

終了18時頃

※○は日本能楽会新会員

《会場のご案内》



- 兼六園シャトルバス 成翼閣前バス停より徒歩1分
 - 出羽町バス停より徒歩3分
- ※駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。